

Book Reviews [自著紹介]



精神分析はウィーソンの医師、フロイトによって始められました。その基本思想は、「私」は「私の知らない私」、すなわち「無意識」によって動かされている、ということにありま

す。その後、精神分析はいくつかの学派に分かれながら発展していきま

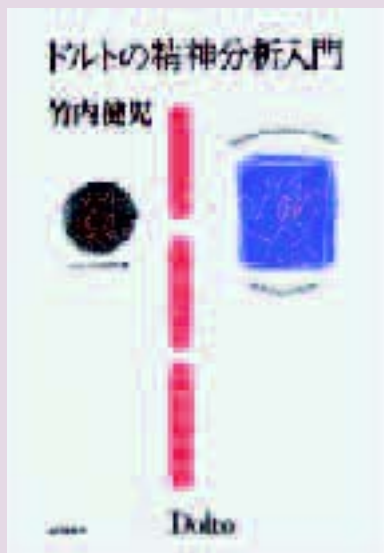
知名度はそれほど高くありません。そこで、ドルトの生涯と思想をまとめて紹介したのが本書です。ドルトの業績は、精神分析治療論はもとより、身体像論、心的発達理論、あるいは育児や学校教育、信仰に関する発言まで大変幅広いものです。それを十七のテーマに分け、わかりやすくするために、架空の講演録の形を取って書いてみました。

総合科学部人間社会学科

竹内 健児 たけうち けんじ

『ドルトの精神分析入門』

出版社: 誠信書房
定価: 本体2,800円+税
発刊日: 2004年7月30日



本年4月、出荷された徳島の名産である「すだち」に基準以上の残留農薬が付着していたことで、県内でも「食の安全・安心」という言葉が大きく謳われました。

本書では食品やその周辺での安全・安心に関わる内容を扱っています。

本書の副題としては、次の4つの題目が表紙に並べられています。「毎日の日本茶・中国茶といま話題の牛肉(BSE)魚介類は安心か」、「肥満病Ⅱ生活習慣病対策」、「食品安全法制の整備、輸入食品現場の検査体制」、そして「トレーサビリティ／Cタグの先端技術」です。「食」、特に「食品」の安全性について、図表を多用し、やさしく解説しています。

O157やBSE(牛海綿状脳症)といった問題が大きく取り上げられてから、健康ブームも相まって、食品とその扱いの安全性について高い関心が寄せられています。中でも、わが国は食料自給率が40%程度と、

食の超輸入大国であることから、輸入食品の安全性が求められています。食品に対する安全性確保に対する国内外の施策や方法、特に最近ブームとなっている輸入および国産の「お茶」の効用と安全性についてわかりやすく解説しています。

著者の一人である森井は、消費者が手に取った食品個々が、いったい何であるのか、いわばその食品個々の履歴や内容を提示する仕組みや技術であるトレーサビリティについて解説しています。

特に最近、注目されているRFIDと略される無線ICタグの技術について解説しています。電子工学や情報工学と言った技術が食品と言うきわめて身近な対象に応用される例としても興味深い内容であると考えています。昨日食べたものを思い出しながら読んでいただければ幸いです。



工学部知能情報工学科

森井 昌克 もりい まさかつ

『食の安全性 徹底検証』

出版社: 東京教育情報センター
定価: 本体1,800円+税
発刊日: 2004年10月1日